

第50回 緑の市民懇話会 会議要旨

1 日 時 令和4年7月7日(木) 13時30分～15時30分

2 場 所 生駒市役所 302会議室

3 出席者

(参加者) 久隆浩座長、下村泰彦、井上良作、倉品夏江、澤村章男、高橋美由紀、長尾夏江、日高容子、山田勲、米田友二、高比良紀、真下藍

(事務局) みどり公園課 河島課長、巽課長補佐、松本所長、南

4 要 旨

1 開 会

2 案 件

(1) 令和3年度事業実績と令和4年度事業概要について

資料1に基づき事務局から説明し、意見交換を行った。

- ・みどり公園課事業
- ・ふろーらむ事業

○公園について

- ・公園の利活用促進はどこでどういう形で実施するのか。
→下半期からであり、まだ具体的な場所や規模は決まっていない。地域を限定せず、市民・事業者を対象とし、公園の利活用についてセミナーで事例紹介等を行った上でワークショップを実施予定である。
- ・PPFI など民間活力を公園に導入することが注目され、大阪などでは郊外含めて多く事例がある。商業施設的な賑わいが公園にとって良いのかという議論はあるが、生駒でも、サウンディングで可能性を探るなどし、計画を立てて、新たな事業手法を検討できると良い。
- ・茨木市では図書館と連携し、公園に移動図書館やカフェがある素敵な空間をみんなで作っている。
→生駒市でもそのような手法を含めて検討する。また、ふろーらむでイベントを行う時には出張図書館をしており、その場で借りられるようにしている。

○街路樹について

- ・街路樹は植栽マスが小さいこともあり老木化が進んでいることが見て取れ、管理は大変だろうと思うが、どのように進めていくのか。
- 生駒市の街路樹の路線は130を超え、幅員・樹種・植えた時期・成長ペース等がさまざまである。財産管理する道路管理部局と剪定等をしているみどり公園課の職員が現地へ赴き、共同で今年度に調査をする。
- ・街路樹については、景観・自然・安全など多面的である。信号等のみ避けて無剪定化する例もある。調査を実施の上、パターン別の管理マニュアルをつくるのがいいと思う。誰が剪定してもよくなることを目指してはどうか。公園も同じで、隣地側、車道側、歩道側と異なった管理マニュアルがよい。場当たりの対応でなく、市としての方針を決める。緑の基本計画にも書いておき、作戦を深めておくとよい。
- 植栽マスの大きさにも制約がある。樹種の選定等を含めて検討が必要である。
- ・他市で、歩道の下の方が車道の下より工事しやすいということで、中高木の街路樹をなくしてしまうこともあるが、できれば避けてほしい。
- ・明治初期の銀座で街路樹は車道にあったのが、いつのまにか歩道にある。車が大事なのか人が大事なのか問い直しつつ、50年後の生駒市の緑を考えても良いかもしれない。

○その他

- ・市有緑地で危険な箇所をよく見かける。新しい方向性を出してもらいたい。
- ・まちなか広場が全国的に流行っており、生駒でいうとバルテラスいこまがある。賑わい性が主流になっている。うまく駅前を利用する手もある。
- ・里山づくりについて、林野庁の企業の森制度がある。企業がCSR活動と福利厚生を兼ねて土地を買い、又は借り、活動は里山ボランティアが行うという事例もある。行政はコーディネーター役となる。大手事業所が市内にどれくらいあるかにも左右されるが、SDGs推進が追い風である。
- ・保護樹木については、景観重要樹木に移行するのも1つかと思う。
- ・おでかけふろーらむのような取り組みは非常に波及効果を感じるのも、もっと実施していくとよいかと思う。また、生駒駅前花だんが今、非常に評判が良い。近隣の企業の支店長の方と話をしたら、地域貢献であれば協力の余地があるという話だから、協力のプレートを花だんに設置するなどの形で連携できないか。

(2) 生駒市緑の基本計画について

資料2に基づき事務局から説明し、意見交換を行った。

- ・緑の基本計画（現行計画）の概要について
- ・社会の変化と都市緑地法の改正について

○計画について

- ・緑の量についてはおそらく減っていると思うが、まずは現況を押さえた上で、国のガイドラインにもあるように、環境保全・レクリエーション・防災・景観の4軸が必要かと思う。特に、防災が都市計画など各分野で注目されており、緑の基本計画でもしっかり扱うべきことかと思う。例えば20～30年前には利水・治水より親水が重視されていたが、今、危険性が再び重視されている。
- ・都市農地の扱いについて、特定生産緑地制度創設などを踏まえ、農地の持つ意味合いをどう盛り込むか、都市緑化に含めるのかなどは考えるべき。
- ・ボランティアで矢田丘陵の遊歩道や山麓公園の整備を行っているが、なぜやるかという、好きだからである。子どもの頃から自然に親しめる環境で育っていた。もっと、子ども・若者と議論した方が良いのではないか。
- ・子どもを巻き込む活動についても、既にされている方は参加者の中にもおられるし、次の計画にも書き込んでいくことはできるかと思う。

○今後の取り組みについて

- ・空き地を含め、都市近郊緑地のありようを考え、緑地の中に人が来てもらえる取り組みを行うとともに、土地所有者へ制度を周知していくとよい。また、公園や緑地の管理を含めて考えることも必要である。
- ・郊外住宅地の公園にもカフェや保育所は設置されつつあるが、公園として供用される面積は減るため、どのあたりまで利活用すべきか議論は必要である。
- ・今後、農地をどう守っていくかは、農業振興と一緒に考えないといけない。
- ・生駒の豊かな自然環境の中で、唯一残念に感じているのが川。ごみや生活排水を減らし、それから人が滞留できる場所ができればと思う。公園的な使い方をする市民もあり、川を使うことを求めている人も多いと思う。
- ・河川は奈良県の管理に係るものものがあるため、要望する・一緒につくる等を含めて一緒に検討する必要がある。高田川では川辺が階段状になっているところがあり、そのようなことが竜田川・富雄川で実現するとよいと思う。

以上、いただいた意見を基に事務局で検討することとした。

3 その他

○受賞報告

- ・「ECOKA 委員会」の功績の概要
- ・「グリーンヒルいこま花俱樂部」の功績の概要

○事務局より概要を説明

- ・奈良県山の日川の日イベントガイドブック

- ・生駒台みんなの森づくりニース
- ・ふろーらむガーデニング講座チラシ
- ・ふろーらむ de カーニバルチラシ
- ・おはなし Café in ふろーらむ

○主宰者より説明

- ・公園にいこーえん通信

4 閉 会